

藝文

第拾七年第七號

龍龕手鑑に引ける玉篇

岡井 慎吾

契丹の僧行均の作なる龍龕手鑑には國海本、張丹鳴刻本と、及び續古逸叢書に收めたる新修龍龕手鑑との三本あり。今古逸本によりて述べんとす。此書には統和十五年の序あり。序中に九仞功績五變炎涼の語あれば、其述作に五年を要したること著く、即ち統和十一年に着手せるを知るなり。

晁公武の讀書志に按紀年通譜、耶律隆緒嘗改元統和とあり、隆緒は聖宗の諱にして統和元年は宋の太宗の太平興國八年なれば、その十年は宋の淳化三年とす。

此龍龕手鑑の中に往々玉篇を引く。さて宋にて玉篇を重修せるは何時着手したらん、其淨寫奏呈せしは大中祥符六年たり。此大中祥符六年は彼淳化三年より二十

二年の後なれば、手鑑に引ける玉篇は宋の重修本たるべからざるは明らかなり。然らば顧氏の原本か、孫氏の増字本か、否らざるか。

今顧氏原本(古逸叢書本を用ふ)によりて手鑑に引ける玉篇を検するに

言部

詛 (原)丑、利、反、蒼頡篇陰知也

(手)丑、利、反、玉篇笑貌

手鑑讞誠の二字玉篇を引けど原本に此字なし。

食部

餼 (原)虛氣反左氏傳齊人饋之餼杜預曰生曰餼熟曰饔也儀禮餼之以其禮鄭玄曰

以牲曰餼々猶稟給也野王案禮記皆有常餼是也埤蒼餼饋也字書餼也

(手)許既反餼也又生牲曰餼也玉篇又許乞反飽也

車部

手鑑輶輯の二字玉篇を引けど原本に此字なし。

舟部 方部

手鑑王篇を引かず。

水部

渤 (原)理得反考工記石有時以渤水有時以凝 有時以澤鄭衆曰謂石有時解散也

夏時盛暑太熱則然說文水凝合之理也

(手)音勒凝合也玉篇又泉聲也

手鑑沐漓泚潜瀛渥漑漚道の九字玉篇を引けど原本に無し。

糸部

縹 (原)匹繞反楚辭翠縹兮爲裳王逸曰衣服耀青葱也又曰顧列字兮縹王逸曰視曄

光曄々也說文帛青白色也

(手)疋小反青黃色也玉篇又疋妙反

縞 (原)近遙反說文綉細也

(手)玄喬反禹所乘也又渠喬反玉篇紗也

縵 (原)且玄反喪服傳齋縵也野王案謂紬常下也漢書縵以扁緒晉灼曰以扁諸縵着衣也說文縵縵縵也廣雅縵索也

(手)七葉反連一也或七人反玉篇又之葉反俱通

紵 (原)戶賜反聲類終重也

繼 (手)與至反重多也玉篇又移異二音麻也部遂又武悲反絆也
 (原子堯反字書亦蕉字也蕉生泉未漚也)

(手)音焦玉篇生麻也

歎 (原)呼兼公廉公函三反說文堅持意口閉也(在欠部)

(手)古咸反閉口不言也又慳也玉篇又公斬吻二反

山部

岫 (原)牛咸反說文岫巖也左氏傳宋鄭之間有隙地曰暢岫也

(手)玉篇同(岩巖)

石部

砧 (原)字書亦砧字也

(手)苦沒反用心砧々也玉篇又音乞

礧 (原)口冬反字書礧礧

(手)戶冬反礧礧石落玉篇又攻洪二音

礧 (原子)田似田二反楚辭石瀨兮礧々王逸曰疾流見也蒼頡篇礧棚也廣雅礧也

字書蜀道也野王案漢書燒絕棧道是也音士板反

礧 (原)苦耕反古文奇字秦蜜動爪於靈山礧谷中左思吳都賦左兮臨礧劉達曰吳東

門也

礧 或作礧容庚反切韻坑同塹坎壑陷也玉篇又石聲

手鑑礧礧砧の四字玉篇を引けど原本に無し。

阜部

手鑑礧字玉篇を引けど原本に無し。

广部

庌 (原)盧鳩反爾雅庌應也郭璞曰今俗人呼樹陰爲庌。

(手)玉篇 此下ニ同字トシテ庌音休庇庌樹陰也。

庌 (原)居毀反爾雅祭山曰庌縣郭璞曰或縣也山經縣以吉王是也音義曰詩推度災

云封庌縣山小祭也野王案猶庌閣也鄭玄注禮記始死之貢其餘閣也以爲庌藏

食物者也淮南毀字在立部

(手)居委反庌懸玉篇又祭山也

手鑑庌庌廬の三字を玉篇を引けど原本になし。

の十三字中吻含せるは一も無く、僅に訓字に於て音切の同じきと歎庌庌三字に於て

義の相通ふとあるのみ。其他は殆ど風馬牛相及ばざるの觀あり。殊に糸石阜部の如きは原本全く存するなれば、此部にして手鑑に引ける字が、原本に存せぬは其收字の範圍も異なる者とせざるべからざるなり。

然らば孫強の増字本なるか。孫本今日に傳はらず、されど普通に考ふる如く孫強本の十五萬八千餘字に更に五萬一千餘字を加へて大廣益本となりたりとすれば、孫本は大廣益本に攝取せられたるべく、隨て孫本を引きたるものは大廣益本にも存在すべきなり。

言部

誨 (廣)女利切陰知也 (手)前に在り、合はず。

詭 (同)尺支切多言

詭 (手)土禾反欺也玉篇又止支反多言也

誠 (廣)胡譏切和也

(手)音咸和也玉篇又音岳亦弄人也

食部

餽 (廣)虛氣切饋餉也 (手)前に在り、合はず。

車部

輶 (廣)余招切小車也

(手)音搖玉篇云大夫之車也又音韶

輯 (廣)秦入切和也

(手)秦入反和也諸也玉篇音習訓同

水部

泐 (廣)力得切石散泐 (手)前に在り、合はず

漶 (同)孚好切波浪貌今作漂又匹袂切普結二切漂漶也

(手)芳滅反漂也玉篇云漶瀝水貌

泚 (廣)口冷切泚澌小水良漂流也

(手)徂頂反泚澌也玉篇又口冷反泚澌

沍 (廣)音本水急又匹奔切

(手)博昆正奔二反玉篇云水汲也香嚴又烏虔反水不行也

瀦 (廣)許氣切水

(手)許氣反水也出玉篇郭遙又音深

潜 (廣)偏母切水

(手)音普玉篇云水也香嚴俗蒲鑒反

灑 (廣)力支切水滲入地也

澗 (手)音離林澗秋水也又玉篇水滲入地也

泥 (廣)士部蒲鑒奴兮二切泥塗也

手蒲鑒反深泥也玉篇又女鑒符鑒二反亦泥泥也。

澗澗道の三字は大廣益本になし。

糸部

縹 (廣)匹妙切青白色 (手)前に在り、音切は合ふ。

縹 (廣)去喬切縹紐也 (手)前に在り、音切は合へど而も玉篇にかけたる者に非ず。

縹 (廣)且立切縹也亦作縹 (手)前に在り、合はす。

縹 (同)余至切重也 (手)前に在り、合はす。

縹 (同)子堯切亦作蕉生泉未漚也。 (手)前に在り、合はす。

山部

岫 (廣)宣咸切山巖也 (手)前に在り、合はす。

石部

砢 (同)同砢 (手)前に在り、合はす。

砢 (同)於兮切黑石

(手)於奚反石也出玉篇

礪 (廣)古晏切水礪

(手)古晏反玉篇云水石礪也

砢 (廣)仕亞切碑石也

(手)音詐玉篇碑也

砢の字は大廣益本にも無し。

阜部

陟 (廣)音遼地名

(手)玉篇音遼池名郭逵又俗五文反

广部

廣 (廣)音莫空也

(手)玉篇音莫空也

龍龜手鑑に引ける玉篇

